

教 育 委 員 会 だ よ り

木の観察会をおこないました。

3月11日(出)、ジョイ・じよぐらにて文化庁の「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」の一環として、小学3年生以上の児童などを対象に「木の観察会」を実施しました。

この事業は、遺跡から出土した木製品の観察を通じて、昔の人たちの木材の使用方法について学習することを目的としています。

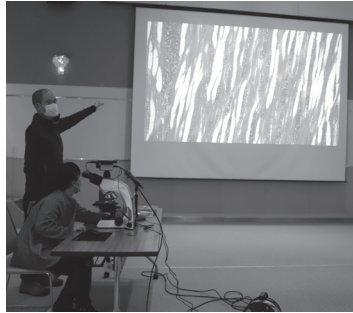
当日は、町内の小学生を中心に13名が参加しました。観察会では、講師の東北大学植物園の小林和貴先生から勝山館跡で最も多く出土するヒバの構造について説明を受けました。

次に、針葉樹と広葉樹の木片を顕微鏡で観察し、参加者から「広葉樹の水分を通す大きい道管があるところが見られて面白かった。」との声が聞かれました。

最後に、上ノ国の植物を使った、顕微鏡で観察できる木片入りのオリジナルキーホルダーを作りました。



キーホルダーの出来上がり！



顕微鏡で木の組織を観察



ルーペを使って遺物を観察

史跡へGO in 花沢館跡

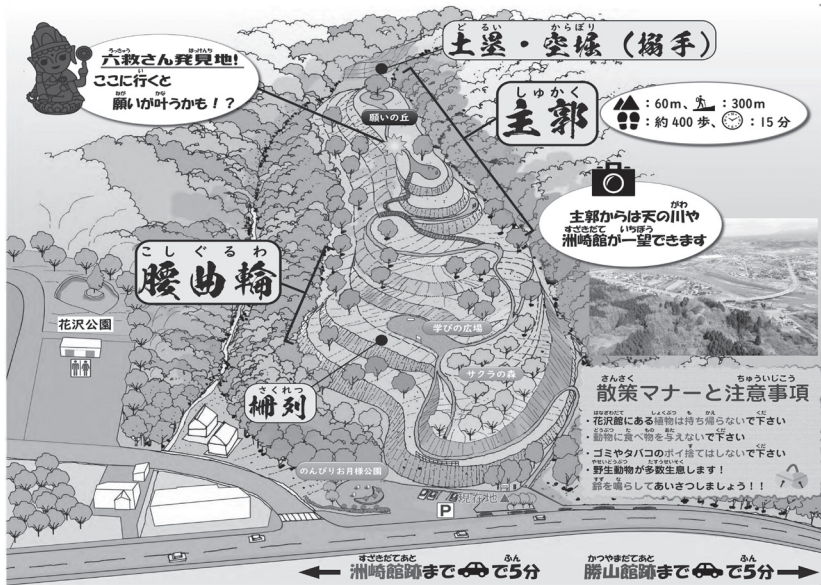
4月に入ると、上ノ国町でも日中は暖かく過ごしやすい気候となります。

天気の良い日には史跡を歩いてみませんか？今回は、ウォーキングにちよいどいい史跡として花沢館跡を皆さんにご紹介いたします。

花沢館は、蠣崎季繁を館

主として、石崎にあった比石館とともに道南十二館の一つとされております。

1457年(長禄元年)アイヌの酋長コシャマインによって、和人の館が攻められた際、ほかの館が次々と陥落する中、花沢館と茂別館(現北斗市矢不來)の二館がかりうじて残りまし



図(花沢館跡整備イメージ)

た。

さて、このような戦いの場としても記憶されている花沢館跡ですが、近年の発掘調査では、お茶道具や六救さんのモデルになった懸仏が発見されています。そのため、ただの見張りの場所ではなく、来客をもてなしたり、お祈りをしたりする勝山館跡のような機能があつたと考えられています。自然豊かな花沢館跡には、3月下旬から4月初旬にかけて入口から腰曲輪(図)のあたりでエゾエンゴサクやキバナノアマナなどの山野草を見ることが出来ます。頂上までの所要時間はおよそ20分程度で、植物や景色を楽しみながら登ればあつという間です。

5月頃には、花沢館跡を利用しやすいように整備するための発掘調査が行われる予定です。

発掘調査が行われる月曜日から木曜日の間は、見学も可能ですので、お気軽にお立ち寄りください。

